

## 第2回審議会における委員からの意見等とそれに対する市の考え方(回答)

基本施策	委員からの意見等	市の考え方(回答)
防災	【展開方向2】 指標、防災訓練の参加者数の範囲は。	小学校区の防災訓練、協働事業の自主防災会、講座等受講者、市が行う総合防災訓練及び水防訓練の総数である。
	【展開方向2】 防災訓練の質を向上させていく必要がある。	訓練内容が代わり映えのないものにならないように、訓練の主体となる地域の方と話し合いながら訓練を計画し、災害時の備えとして取り組んでいく。
	【現況と課題】 若者世代への取り組みの記載はあるが、高齢世代への取り組みの記載がない。防災訓練で若者と高齢者のつながりをもたせるのはどうか。	調査結果によると、高齢世代に比べて若者世代の防災意識が低いことから、若者世代に対して重点的に取り組んでいく必要があると考えている。
生活安全	【展開方向3】 自殺についても大変大きな問題である。自殺対策や孤独死について展開方向3に記載してはどうか。	自殺対策や孤独死への対応については、第3回審議会の第2部会で審議いただく保健・福祉の分野において記載する予定である。
	【展開方向2】 地域で取り組む防犯対策がわかるように、モデル地区など、目に見える形で示してはどうか。	犯罪多発地区や駅周辺を重点地区に指定することや子供の見守り、登下校の安全対策として、モデル小学校区の指定など、犯罪の発生状況や社会情勢を踏まえてモデル地区などの指定を検討していく。
	【展開方向2】 自主防犯パトロール隊を結成し活動しているが、町内だけでなく、小学校単位での活動を展開していきたい。	一部の地域協議会が設立されている小学校区では、小学校区単位で防犯パトロールの活動を行っている。今後は、HPや広報こまき等により市民へ防犯パトロール隊の活動を紹介することにより防犯パトロール活動への参加を呼び掛けていく。また、引き続き防犯パトロール隊の活動費用に対する補助や、パトロールに必要な犯罪発生の情報警察署に提供する活動を支援していく。
消防・救急	【展開方向1】 展開方向の名称が基本施策の目的と同じ表現になっている。現計画の「火災予防対策を充実します」でどうか。	火災予防対策全般を進めていくことに変わりないが、重点部分をよりわかりやすい表現にしたいと考えて、この名称とした。
	【展開方向1】 住宅火災原因の上位はなにか。	住宅火災に限らず全火災の平成29年中の状況は、全国的に見ると、たばこ、放火、たき火の順である。また本市では、放火、たき火、電気装置、電気配線関係を原因とする火災がいずれも4件と最も多い。
	【展開方向1】 放火対策として、市民の自助を促す記載も必要ではないか。	火災原因を含めた火災予防対策全般を進めていくことに変わりはなく、重点的に取り組む内容を記載した。
	【展開方向2】 耐震性防火水槽の設置について、現状はどうか。	337基のうち132基の防火水槽が耐震化済み。

基本施策	委員からの意見等	市の考え方(回答)
環境	【状態指標】 大気汚染の指標の基準値が75%だが、どのような内容か。	国道41号の影響があると思われる。測定場所は小牧高校にあり、4つのうち1つが基準を上回っている。
ごみ対策	【全体】 京都では生ごみ処理機が広く普及しており、ごみの減少に繋がっていると聞く。ごみの量を減らすことで経費が少なくなることを広報などで周知してはどうか。	生ごみは、燃やすごみの多くを占めており、本市でも、コンポスト容器や生ごみ処理機を購入された方に補助金を交付しているところである。今後も、燃やすごみ減少のため、本市のごみ処理状況や制度などについて、広報やホームページで周知を図る。
	【展開方向1】 手段にある地域とは何を指すのか。	行政区、子ども会、小学校のPTA、老人クラブなどの団体を指している。
	【展開方向1】 地域による自主的な資源回収活動への支援は、具体的にどういった形での支援を考えているのか。	子ども会などの自主的に古紙古布を回収した団体に対しては、収集量に応じて奨励金を交付している。また、平成31年4月からはごみ集積場に排出された古紙古布の売却益を区に還元していく予定である。
	【展開方向1】 小牧市はごみ政策が進んでいる。可燃ごみもずいぶん減っている。地域に還元するもの大きな方向付けである。	引き続き、ごみの減量化、資源化に取り組んでいく。
	【展開方向3】 緑道や公園はきれいだが、ペットの糞の後始末が問題である。	今後も周知、啓発に努めていく。
	【全体】 ごみの分別方法が自治体ごとに違う。長期的には統一できるような取り組みを進めてほしい。	処理の状況が自治体により異なるため、現在のところは難しい。
	【全体】 スプレー缶に穴を空ける必要がない自治体もある。対応できる業者を探すことはできないか。	今後の国の方針などをふまえて検討していく。

基本施策	委員からの意見等	市の考え方(回答)
シティプロモーション	【展開方向2】 イベントやまつりには、二通りの考え方があり、市民のためのものと、市外の人を呼び込むものがある。観光の観点からは、こまきの魅力を広く伝え、集客することが必要と考えるが、どのように考えているか。	市民を対象とするまつりとしては、市民まつりがあり、市外からの誘客を目指すまつりとしては、春のさくらまつりや秋の夢夜会がある。ポスターやチラシを市外で配布しているところであり、これからも近隣市との連携を含めて情報発信していきたい。
農業	【状態指標】 鳥獣被害について、どのような対策を考えているのか。	現在は地域の猟友会に委託して対応している。今後は地域に協議会を設置するなどして対策を検討していきたい。
商工業	【展開方向1】 産業立地戦略会議では、工業用地の確保が難しいと聞いたが、この問題はクリアしたのか。	条例制定等にて規制緩和を行い、また、民有地の所有者とも定期的に情報交換を行いながら、用地の確保を図っている。工業団地の整備についても、他市の取組の調査研究をしている。
	【展開方向3】 指標の起業者数の4人は少ないのではないか。	起業者数の4人は、セミナーに参加した人のうち起業創業した人数としている。
	【展開方向2】 「こまき新産業振興センター」はどのくらいの規模なのか。	平成31年4月の開設に向けて準備を進めており、商工会議所1階の児童センターがあったところに設置する。センター長、コーディネーター、アドバイザーなどの配置を予定している。
	【展開方向2】 小牧の魅力ある商工業をアピールすることが必要である。展示などができるとよい。市民に夢を持ってもらうような取組を進めていただきたい。	展示スペースの常設の場所は予定していないが、産業フェスタ等を通じて、市内企業の魅力を発信していく。

